



美浦中学校2年生が 台北市立敦化国民中学を訪問しました

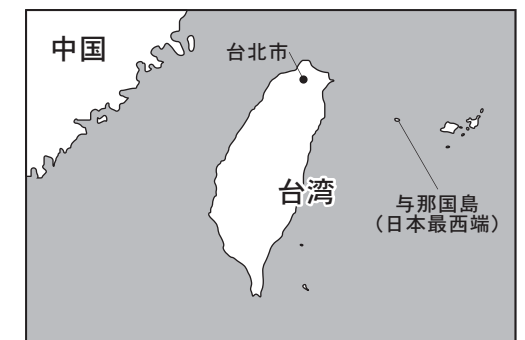


美浦少年のつばさ事業 台湾の伝統と文化に触れた5日間

今年で27回目をむかえる「美浦少年のつばさ事業」は、海外の同世代の人々との交流を通じて国際感覚を備えた美浦村の将来を担っていく人材の育成を目的に、美浦村人材育成推進協議会が毎年行っている事業です。今年7月29日から8月2日までの5日間、美浦中2年生15名を含む美浦村訪問団が台湾を訪れました。

今年も中学2年生の団員募集には多数の応募があり、抽選により15名の団員が決定しました。

団員の皆さんは、普段の生活との違いに戸惑い、言葉の壁にぶつかりながらも、台北市立敦化国民中学の生徒との交流を通じてかけがえのない友人をつくることができました。台湾の伝統と文化を身近に体験した5日間でした。



引率者 《敬称略》

団長	塚本 光司(美浦村議会議員)
	後藤 和広(美浦中学校教頭)
	白土 翔(美浦中学校教諭)
	永長 望(美浦中学校養護教諭)
	石川 大志(役場企画財政課)



訪問団団長
美浦村議会議員
塚本 光司

令和元年度の「美浦少年のつばさ事業」に、団長として参加させて頂きました。この事業は今回で27回目にもなる、非常に興味のある事業でした。台北市立敦化中学校の皆さんとの交流を中心とした日程で台北市を訪れ、非常に有意義な5日間となった事は言うまでもありません。敦化中生との交流の中では、両校の中学生が

英語や台湾語、ジェスチャーを交えて自分の意思を相手に伝えようとする姿に私は目を細めずにはいられませんでした。さらには、敦化中を訪れた時に行われた歓迎式での表情、交流体験中の表情、お別れのハグをしている時の表情に今回の交流の意義を感じ取る事ができました。交流を深めることで友好・友情に国境はないんだと、そして、両中学生の成長と皆の思いが伝わって来る様でした。

最後に私たち訪問団が無事帰国出来ましたこと、団員の皆さん、保護者の皆様をはじめ引率してくださった先生方に感謝申し上げますと共に、このような機会をくださった美浦村に心より万謝申し上げます。



黒田 斗雅
(2 - C)

僕はこの少年のつばさ事業を通して貴重な経験をすることが出来ました。敦化中の生徒との交流では自分の持っている英語の能力を使い上手く会話をはずませることが出来ました。敦化中の友達がたくさん来て、2日間でしたが充実した交流会にすることが出来ました。台湾はとても素敵な所で新しく出来た建物や古くから引き継がれている建物があり台湾の歴史を感じることが出来ました。台北101の夜景はとても美しく感動しました。協力してくださった皆さん本当にありがとうございました。この思いを忘れず、いつかまた台湾に行きたいです。



野口 真拓
(2 - C)

ぼくは、この5日間で多くの事を学び経験することができました。特に台湾で1番身に付いたことは、コミュニケーション能力だと思います。交流1日目はあまり台湾の生徒に自分から積極的に話かけることができませんでした。しかし台湾の人たちから話しかけてくれてとても嬉しかったです。このことから、言葉が伝わらない大変さとコミュニケーション能力の大切さを改めて感じる事ができました。ぼくは、この5日間の少年のつばさで学んだ多くのことを、しっかり周りの人に伝え、自分も今後に生かせるようにしていきたいです。



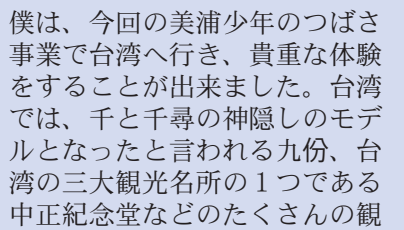
坂井 佳音
(2 - A)

今回の事業では、現地の敦化中生と交流することで、台湾の方の慣習や、日本とは違うところを知り、日本のことや美浦村のことを教えることで仲も深まりました。交流する際は英語での会話なので、話しが伝わるか、最初は不安でいっぱいでしたが、敦化中生達が気を遣ってくれて、ゆっくり話してくれたり、翻訳して、日本語で説明してくれたりとても良かったです。また、全員フレンドリーで、話しかけやすかったです。もし、敦化中生達が、美浦中に来ることがあれば、私達にしてくれたように、優しく、積極的に接したいです。



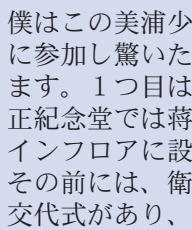
星野 杏奈
(2 - A)

美浦少年のつばさ事業で台湾を訪問しました。私が一番心に残った事は、敦化中との交流会でペアになった生徒と仲を深める事ができたことです。体験活動やDIYと一緒にしましたが、他にも好きな歌手の話をしたり、プレゼントを交換したり、別れを惜しむ程でした。また敦化中の生徒は英語がスラスラとしゃべっていたので、私ももっと英会話力を身につけたいと思いました。また、各所を巡り、幻想的で美しい風景を見たり、食文化の違いにも触れたりする事ができました。日本では経験する事ができない、有意義な5日間でした。



平松 拓己
(2 - C)

僕は、今回の美浦少年のつばさ事業で台湾へ行き、貴重な体験をすることが出来ました。台湾では、千と千尋の神隠しのモデルとなったと言われる九份、台湾の三大観光名所の1つである中正紀念堂などのたくさんの観光名所を巡りました。特に印象に残ったことは中正紀念堂と忠烈祠の両方で見た衛兵交代です。動いているときは一糸乱れず、止まっているときは微動だにしない姿は、カッコ良かったです。敦化中の生徒には伝統的なダンスを教えてもらい、台湾の文化に触れる事ができました。次は、英語をもっと出来るようにしてから行きたいです。

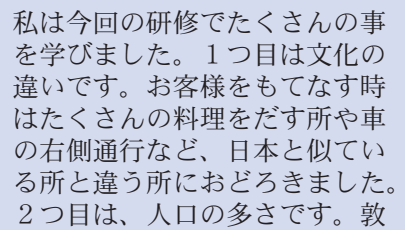


諸岡 月兎
(2 - C)

僕はこの美浦少年のつばさ事業に参加し驚いたことが2つあります。1つ目は、文化です。中正紀念堂では蒋介石の銅像がメインフロアに設置されています。その前には、衛兵がいて、衛兵交代式があり、迫力がありました。2つ目は英語です。僕たちは台湾の敦化中の生徒と交流しました。そこでは体験授業をしたり、十分で天燈上げをしたりしました。主に会話をするために使った言語は英語でした。敦化中生は、発音が良くてすぐ聞き取りやすかったです。敦化中生との英語のレベルの違いに驚き、もっと英語の力を高めたいと思いました。



諸岡 月兎
(2 - C)

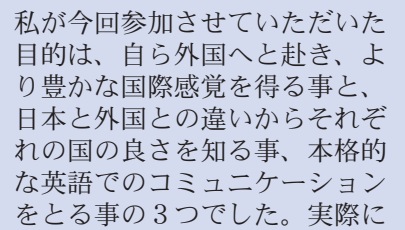


貝塚 千恵実
(2 - B)

私は今回の研修でたくさんの事を学びました。1つ目は文化の違いです。お客様をもてなす時はたくさんの料理をだす所や車の右側通行など、日本と似ている所と違う所におどろきました。2つ目は、人口の多さです。敦化中学校へ行った時、校舎の大きさが美浦中とは全く違いとてもおどろきました。3つ目は英語の大切さです。敦化中生との交流では全て英語での会話でした。どのように伝えるのか英語が出てこない時が多く、団員の人に助けてもらっていました。このような場面からもっとたくさん勉強して、海外で活躍できる人になりたいです。

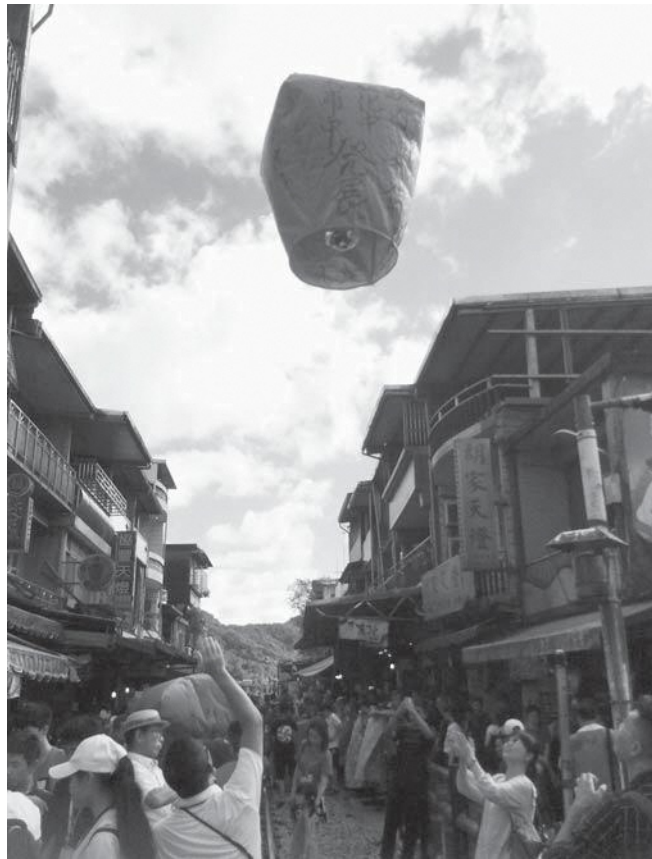


貝塚 千恵実
(2 - B)



桑野 涼
(2 - B)

私が今回参加させていただいた目的は、自ら外国へと赴き、より豊かな国際感覚を得る事と、日本と外国との違いからそれぞれの国の良さを知る事、本格的な英語でのコミュニケーションをとる事の3つでした。実際に現地に行ってみると、台湾は日本人の口に合った料理があったり日本円が使えたりと非常に親切な事、台湾人は人あたりが良く、フレンドリーである事、そして、敦化中生は私たちより英語を上手につ使いこなしていたので、今以上に英語をもっと勉強した方が良いという事を学びました。この経験を無駄にしないようにします。



金子 遙
(2-D)

私はこの美浦少年のつばさ事業が自分にとって、人生を変える大きな体験だったと思います。実際に海外に行ってみて、その地域の文化や、風土が分かって驚く事が多々ありました。敦化中生との交流では、私は最初あまり、コミュニケーションを取れずに緊張していました。しかし、交流していくうちに、心を開き、自然と仲良くなれました。海外の友人が初めて出来、また会える日を楽しみにしています。私自身に取って、考え方を変える機会であり、教養の幅を広げられた期間でした。この機会を無駄にせず、今後生かしていけるようにしたいです。



平塚 帆乃佳
(2-D)

今回の研修で私は、自身の英語の力がどこまで使えるのか試したいと思い参加しました。初めての出国・入国審査で空港を抜けられるのかとずっと緊張していました。敦化中生とダンスの練習をして思ったのが、とても優しい子達だと思いました。振りつけがあまりうまくできないときはゆっくりとその動きをしてくれたのでとても助かりました。これまでの異文化交流を通して、コミュニケーションをとるには、その人を理解しようとする気持ちが大切でそれと同じ位言葉も必要だと感じました。これからも英語の勉強にはげみたいと思います。



鎌形 菜緒
(2-C)

私は少年のつばさに参加して、学んだことがあります。それは笑顔の大切さです。私は英語を通して敦化中の方々ときちんと交流できるかととても不安でした。でも、笑顔大切に話しかけると相手の方も笑顔になってくれて、2日間しか交流はできませんでしたが、改めて笑顔は大切なんだと思いました。「日本の文化を伝える」という私の目標は、なかなか伝わらず難しかったですが、敦化中の事や台湾の文化を知る事ができました。短い5日間の中で私は沢山の事を学び、とても充実した5日間を過ごせました。



下村 一葉
(2-C)

私はこの少年のつばさ事業でコミュニケーションの大事さを学びました。敦化中の生徒との交流で最初は緊張してしまい、何を話していいかわからずいました。しかしジェスチャーを交えたりして会話をすることができました。何よりうれしかったのは、敦化中の生徒がとても優しく笑顔で話しかけてくれたことです。私も見習いたいと思いました。交流の最後には手紙をもらい握手をしてお別れをしました。その手紙は私の宝物です。今回の研修で学んだことを今後に生かせるようにもっと英語を勉強して様々な国の人と交流をしたいと思いました。



私は、今回の少年のつばさ事業で、たとえ話す言語が違っていても勇気をだして話しかけることが大事だということを学びました。今までは、言語が違う人と関わる時、まるでヘビをさわるような恐ろしい感覚だったけれど、敦化中学校の生徒と交流をしていくうちに、やはり同じ人間なんだな、と感じ、積極的に話しかけることができるようになりました。その結果、敦化中学校の生徒との仲が深まり、「我喜歡你（あなたとは気が合う）」と言ってもらえた時はとても嬉しかったです。これからは、言語が違う人とも積極的に関わっていこうと思います。



山中 寧々
(2-D)

今回台湾へ行って様々なことを経験し学ぶ事ができました。まず、敦化中学校との交流です。敦化中学校の方々は、とても明るく元気で接しやすく学校のことなど様々なことを教えてくれました。敦化中学校との交流はかけがえのない思い出となり、他国の中学生と関わる機会は今中々ないのでとても良い経験となりました。交流の他にも様々な名所や博物館へ行き台湾の歴史を肌で感じる事ができて良かったです。初めての海外ということで不安もありましたがこの5日間で自分の可能性も広げることができたので良かったです。



井上 颯太郎
(2-D)

私のこの美浦少年のつばさにおいての目標は、実際に台湾を訪れないとできないことを体験することでした。まず、亜熱帯特有の蒸し暑い中、衛兵たちの端正な姿に瞠目しました。次に敦化中生との儀仗舞学習です。1メートルもの大きな旗を使って躍ることは大変でしたが、一緒に成果を発表したことは最高の思い出です。また、敦化中生が英語で説明してくれたのに対し、自分の能力不足のためぎこちなくなってしまう、英語力の無さを実感しました。実際に台湾を訪れて多くのことを学ぶことができ、かけがえのない時間を過ごせました。



小倉 愛未
(2-D)